

# 多言語習得へのヒント

木村 博美

今まで現役時代は海外の仕事が主体で、英語で仕事をする事が多くありました。その過程で他の外国語にも興味が湧いてきて数か国語を表面的に学んでみました。勿論簡単な日常会話が主体ですが英語やラテン語との関連性に突っ込んでいくと面白さが増します。具体的には英語、フランス語、スペイン語、インドネシア語、中国語で今はドイツ語を学んでおります。この6か国語は駐在したインドネシア語を除きほぼ独学で習得しました。その過程で気づいた点をあげますので参考にしてください。

## 1. フランス語

大学時代に綺麗な言葉だなと感銘し、シャンソンの楽譜を取り寄せ一人でこっそり歌ってました。私のやり方は日常会話で頻繁に使われる基本表現に絞ってみました。スタンダードなどの文学書やルソーなど大作品ではとても難しく先に進まないことが分かったからです。後述しますが、スペイン語、イタリア語もラテン語がルーツとなっており、冷やかしてラテン語のテキストを見るとなんと共通の言葉が多いことか。入社数年目にベトナムから視察団が来日し英語で通訳をしましたが、相手はあまり得意でないのでフランス語でどうかと提案があり怖いもの知らずでやってみました。フランス語は彼らにとっても外国語であるフランス語特有の悩ましい発音が少なくクリアでわかり易かったです。

## 2. スペイン語

娘一家が転勤（夫が商社勤務の日本人）でメキシコへ赴任したのがきっかけです。同じラテン系の言葉で類似単語、表現が多くて驚きです。南米の先生についてグループレッスンを受けてました。大部分の人はスペインまたメキシコ駐在経験のある人でしたが、ほぼ一年で簡単な時事問題ぐらいつまみまで討議できました。フランス語と比べ苦労したのはスペイン語では通常主語を省略することが多



バングラディッシュの人達と

くなります。そうすると動詞の語尾変化をピンポイントでやらないといけないのです。これには今でも苦労していますが、発音はほとんどローマ字読みで通じるので日本人にとってはなじみやすいのではないのでしょうか。

## 3. インドネシア語

今から30年前に同国に駐在した関係で初めて出会いました。簡単日常会話は半年あれば誰でもしゃべれます。今でも覚えていて家内と機密の話をする場合便利です。例えば来客があり「今晚夕食誘う？どうする？」なんてことを確認する場合があります。旧植民地だった関係でオランダ語が入ってます。薬局はアポテック、事務所はカントール、冗談話と思われませんが、切るはポトン、魚はイカン、お菓子はクエ、赤はメラ、オランウタン（オランは人、ウタンは森）。ナシゴレン、これはお分かりですね。多分関係性はないでしょうが、私はスペイン語とごちゃごちゃになる場合が時々あります（笑）。

## 4. イタリア語

勉強したことはありませんが、簡単な文章を聞いたり見れば大体類推できます。やはりルーツがラテン語だからでしょう。筆者はアマチュアのバ

イオリニストですが、楽譜には多くの表号や記号がありますがイタリア語で表示されています。皆さんもご存じのクレッシェンド（段々大きく）デクレッシェンド（段々小さく）これも Increase(増える)Decrease(減少する)と同じルーツです。イタリア大好き人間の筆者は今春ベネチアに女房共々演奏旅行に行く機会があり、一生の思い出となりました。映画でも「道」や「ひまわり」なんぞ何回見ても感涙です。もっと勉強していればよかったです。You cannot teach old dogs new tricks.(笑)

## 5. ポルトガル語

まったく勉強したことないですが、美しい言葉ですね。よくスペイン語に似ていると言われますが、意外にもイタリア語の方がスペイン語に似ているという人が多いのです。あの独特な音楽ファドには魅せられますね。

## 6. ドイツ語

今取り組んでいる格闘中の言葉です。イタリア語同様ドイツ語で楽譜への指示が多く書かれています。特に筆者が傾倒しているグスタフ・マーラーの楽譜はドイツ語だらけです。ボヘミア人でありチェコ人でもあり又ユダヤ人の彼はどんな気持ちでドイツ語で表示したのでしょうか。なぜ私が格闘中なのか。それは上記のラテン系統の言葉と単語も大きく違うし【もちろん英語とは類似語多くありますが】分離動詞とか少なくとも私にとっては極めて難解な言葉です。例えば私はバイオリンを弾きたいという場合にはラテン系であれば大体 I want to play the violin の語順なるもドイツ語では I want the violin to play になります。勿論その語順で覚えてしまえばいいのですが、長年染みつけた癖はとりにくいものです。余談ながら Native を除いて日本で独学した者でドイツ語を流ちょうに話す人に会ったことがありません。フランス語、スペイン語、などは結構います。明治の文豪など例えば森鷗外なんぞはドイツ留学もし読み書きは上級レベルなるも果たして会話はどうだ

ったのか気になるところです。

## 7. 中国語

10年近くやっていますが、途中数年は何もせず実際真面目にやったのは、半年ぐらいで初級から中級レベルです。余談ながら筆者の現役時代に韓国に工場があり人件費削減の観点から中国に工場自体を移転しました。当然技術指導に数名の韓国人を中国に派遣しました。筆者が一年後現地訪問したところ、会議室から怒鳴りあう声が聞こえてきました。なんだろうと思って会議室に入ると工場長（中国人）と派遣された韓国人（副社長）の二人が激しい議論をそれもなんと中国語で戦わしていたのには驚きました。今後の値上げ方針にかかわる議論だったらしいのです。あとで韓国人の副社長に「貴方の中国語流暢だね。10年ぐらい駐在してたの？」と聞くと、「中国語は1年前に始めただけです」と言うのです。まったく驚愕しました。それにしても5~6年も駐在している日本人はなぜできないのか不思議だと言っていました。皆さんもお気づきのように隣国の中韓の人は語学のセンスにたけていますね。何故なのでしょう。この大命題は別途書きますが一言でいえば日本人の外国語会話が下手なのは次の二点です。世界でも最低部類になります。確か日本より低いのはなんと北朝鮮とアフリカの2,3か国で120位ぐらいです。耳の痛い方もいらっしゃるでしょうが、つまり—

1. 文法にこだわりすぎる。
2. 間違えると恥ずかしい。特に自分よりうまい人がいると委縮する。

練習法としてはブローケン英語であれ、ブローケン中国語であれ、大声で話し通すことです。日本で生まれた子供は SVO とか SVC とか文法を教えなくても流暢に話すではないですか！言葉より内容の方が重要ですよという人がいますが、それは当たり前のこと。そのうえでいかに自分の考え方をきっちり効果的に伝えるかです。私の経験談が何らかのヒントになれば幸いです。